

管内肉用牛繁殖農場の牛伝染性リンパ腫清浄化対策：岡山県高梁家保 西川早百合、西淳子

当農場は地域ブランド牛を生産する和牛一貫経営の繁殖部門。令和4年4月に繁殖牛（34カ月齢）が牛伝染性リンパ腫（BL）で死亡。浸潤状況調査で繁殖牛17/88頭（19.3%）が牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）抗体陽性。ブランドイメージへの影響や発症による損害増加が懸念されるため、関係機関と協議を重ね、①農場から約400m離れた空牛舎へ陽性繁殖牛（陽性牛）を隔離後、計画的に淘汰②陽性牛産子はBLV遺伝子検査で陽性の場合、系列農場で肥育③年一回、陰性繁殖牛全頭の抗体検査を実施。隔離飼育に伴う労力や検査費用の増加といった課題が生じたが、地域のBL清浄化対策モデル農場を目指す。令和7年6月検査で抗体陽性2/47頭（4.3%）に減少、陽性牛は今年度淘汰予定。空牛舎を利用した陽性牛の隔離飼育と淘汰により、約4年の短期間で清浄化達成予定。今後、淘汰により減少した繁殖牛の頭数を回復させ、地域ブランド牛の安定生産につなげる。